



初級中国語学習者における声調習得の実態について ：インプットとアウトプットに関する考察

呉, 青姫

(Citation)

神戸大学国際コミュニケーションセンター論集, 16:58-66

(Issue Date)

2020-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81011984>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81011984>



初級中国語学習者における声調習得の実態について

—インプットとアウトプットに関する考察—

呉 青姫

神戸大学 大学教育推進機構(非常勤講師)

The Actual Condition of Tone Acquisition in Beginning Chinese Learners: Considerations on Inputs and Outputs

WU QINGJI

Kobe University, IPHE (Part-time Lecturer)

概要

日本語を母語とする初級中国語学習者は、一般的に言語の四機能の中、聴く能力と話す能力が低く、コミュニケーション能力において不利を抱えている。筆者はその実態の原因の一つが初期段階における「声調」習得にあると考える。ゆえに、学習者が声調をどのように認識し、どのように産出しているのかを考察することを通じて、習得の特徴を分類することで、その把握状況を測った。分析の結果、1声と4声の正答率が最も高かったが、一方で2声と3声を1声と4声に間違えやすい傾向があることが観察できた。これらの原因として考えられるのは、①二音節から四音節になるにつれて正答率が低くなっていることより連音化に弱いこと、②母語である日本語のアクセントの影響を受けていることであった。今後、声調指導における教授法の工夫が必要であるが、その際には臨界期仮説のように学習者はすでに言語習得の臨界期を超えている点と学習環境を考慮した理解しやすい教授法を工夫する必要がある。

キーワード

中国語学習者、声調、認識、産出、コミュニケーション

1. はじめに

ほかの言語同様に、中国語教育においても受信と発信のバランスのとれた育成が重要視される。「聴く・話す・読む・書く」の四つの言語機能の中で、日本人学習者は一般的に読む・書く能力に比べて聴く能力と話す能力が低く、コミュニケーション能力において不利を抱えている。筆者はその

原因の一つが初期段階における「声調」習得にあると考えている。声調には、一声から四声および軽声があるが、中国語の音節を成す一つの要素として、主に音の高低と上げ下げを表すもので、単語の意味自体に変化を引き起こす場合もあり、センテンスレベルにおいて文脈や情報の伝達に非常に大きな役割を果たす。声調の正確な教授法・習得法は、コミュニケーション能力を上昇させることに繋がる、重要な研究分野であるといえる(呉, 2011, 2012)。

コミュニケーション能力は図1で示してあるように、プロソディーから正確性と複雑性、流暢性に繋がるプロセスである。通常、学習者は中国語学習をはじめた初期段階において声調を学習することになり、この入門段階において困難に直面することになる。初習者がこの困難によって挫折することがないように、指導法の工夫が必要である。中国語学習者の声調習得に関する研究には多くの蓄積があるが、インプットとアウトプットの組み合わせによって検討した研究は稀である。本稿では、声調習得がヒアリングと発声の両方に反映されるものと考え、両データを用いて習得状況を考察し、今後の声調指導に明確な指導目標の設定ができるよう、学習者の声調習得に現存する問題点を正確に把握することを目的とし、声調の習得の特徴および声調の誤りが起こる原因を探る。

同目的のために、次の章では第3クォーター(以下、第3Qと略す)に実施した質疑応答の会話試験(以下、会話試験と略す)と第4クォーター(以下、第4Qと略す)に実施したヒアリングの筆記試験(以下、筆記試験と略す)の具体的な実験方法と本稿で用いるデータの収集方法を紹介する。第三章では、集計データを用いて学習者にみられがちな誤った声調のパターンを分類し、その傾向の特徴を探る。最後の「おわりに」では、全体の分析結果をまとめ、今後初級中国語の指導において声調教育をどのように実施していくべきかに関しても検討する。

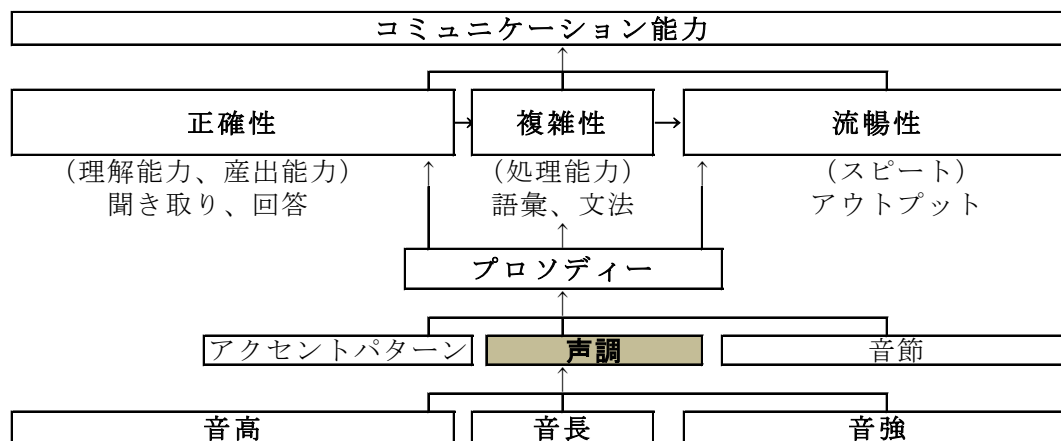


図1 コミュニケーション能力における声調の位置づけ

2. サンプリング方法

2.1 実験目的

学習者の習得状況を正確に把握し、理解不足の原因を究明することは教育における重要な課

題であるため、本研究ではデータ集計をもとに、習熟度と発音ミスの原因を探る。習熟度の測定方法は様々であるが、本稿では主に「話す」と「聴く」の二つの機能に焦点をあて、学習者が声調をどのように認識(インプット)し、どのように産出(アウトプット)しているのかについて考察する。

習熟度の測定に用いたデータは学習者の会話試験の録音とヒアリング試験のデータである。会話試験では、事前に質問文を配布し、履修者に回答を作成させた上で教員が文法的な誤りを修正し、その正しい発音を教員が録音したものを聞きながら各自十分に練習をしてから試験に臨むこととした。また、筆記試験では、単音節のよりも二つ以上の音節が連合された場合に誤りが多い可能性が高いことから、二音節以上の多音節の筆記試験を行った。以下、分析対象者、学習者の受講時間数、試験実施時間である。

- ・分析対象者:神戸大学の2019年度学習者(学習者35人, 全員男子学生)
- ・受講時間数:2回/週×90分×60回(筆者は週1回の30回を担当し, 残りはほかの教員が担当)
- ・学習教材:朱春躍・中川正之著, 2017, 『はじめての中国語 基礎文法編』
- ・会話試験時間:第3Q(2019年11月26日)
- ・参考書:郭春貴著, 2005, 『日本人のための中国語発音の特訓』
- ・筆記試験時間:第4Q(2020年1月21日)

2.1 実験方法

実験1:会話試験の録音記録

第3Qで学習者は教材の第一課から第三課までを学習していたが、十分に準備をしてから会話試験に臨んでもらうため、会話試験では主に第一課と第二課の内容を応用して各課から10個、合計20個の中国語の質問文を、試験日の3週間程前に配布して各自答えを考えてくるように指示し、答え合わせと修正を経て、オリジナルの回答案を決めたため、答えが必ずしも同じではない。最終的には、教員が正しい発音を録音してbeefに載せ、学習者が音声を聞きながら準備をして試験に臨むこととした。このように、事前に十分に準備をしたため、試験で間違った部分は純粋に学習者が容易に訂正できない部分と解釈しうる。

会話試験はくじ引きをしてから実施され、各受験者が引いたくじ番号に応じて、教員が四つから五つの質問をし、それに中国語で解答する形でマンツーマンの形式で行われた。採点基準には声調の正しさだけでなく、単語と単語の間の止息、スピード(1分30秒以内に解答)、流暢さも採点対象とした。

表 1 会話試験の内容

第一課を応用した質問		
1	你喜欢弹什么乐器？	どんな楽器を弾くのが好きですか？
2	你会拉二胡吗？	二胡が弾けますか？
3	二胡和小提琴，你更喜欢听哪个？	二胡とバイオリンのどちらの音が好きですか？
4	你不会弹乐器，那你的爱好是什么？	楽器ができなければ、趣味は何ですか？
5	你从什么时候开始学了多长时间？	いつからどれぐらい学びましたか？
6	你教过别人乐器吗？	他人に楽器を教えたことがありますか？
7	你都给别人教过什么？	他人に何を教えたことがありますか？
8	二胡和小提琴，你觉得哪个更难学？	二胡とバイオリンのどちらが学びにくいですか？
9	你听过二胡的声音吗？	二胡の音を聴いたことがありますか？
10	你喜欢什么乐器的声音？	どんな楽器の音が好きですか？
第二課を応用した質問		
11	你知道什么叫羊绒衫，什么叫皮夹克吗？	カシヤーターとジャンパーが何か知ってますか？
12	你有没有羊绒衫？什么时候穿羊绒衫？	カシヤーターをもってますか？いつ着ますか？
13	学生能赚钱吗？怎么赚/为什么不能赚？	学生はお金を稼ぐことができますか？どのようにできますか？どうしてできませんか？
14	买衣服的时候你试不试穿？不合适怎么办？	服を買う時に試着しますか？合わなかったらどうしますか？
15	在日本在哪儿可以可以讨价还价？	日本ではどこで買い物する時に値段交渉が可能ですか？
16	你喜欢买贵的东西还是喜欢买便宜的东西？为什么？	値段が高い物と安いものとどちらを買うのが好きですか？どうしてですか？
17	你觉得摊子上卖的东西贵不贵？为什么？	屋台で売っている物は高いですか安いですか？
18	什么叫促销，日本的促销季节是什么时候？	セールとはどういうことでしょうか？日本のセール季節はいつですか？
19	一件皮夹克多少钱你觉得便宜？为什么？	ジャンパーはいくらであれば安いと思いますか？どうしてそう思いますか？
20	你平时在哪里买衣服？那里都卖些什么？	普段どこで買い物しますか？そこは他にどんなものを売ってますか？

実験 2: 筆記試験

筆記試験は第 4Q に実施されたものであり、1Q に中国語学習をスタートした頃のように、声調に関するトレーニングや声調の復習を強調をせず、一年間を通じて身に着けた声調の習得状況をありのまま把握するため、事前に試験の実施に関して予告もせず行った。

筆記試験の内容は『日本人のための中国語発音の特訓』から抽出した二音節、三音節、四音節の多音節を試験内容にした。教員が二回ずつ発音をし、受講生が各自正しいと思う声調を解答する形で行った。表 2 に示してあるように、二音節に関しては、一声から四声までと轻声のそれぞれの組み合わせで合計 20 通り、三音節と四音節は比較的頻度の高い一部の組み合わせだけに絞り、三音節では 8 通り、四音節では 4 通りの出題とした。

表 2 筆記試験の実施内容

2 音 節	1声+1声	1声+2声	1声+3声	1声+4声	1声+轻声
	dōngfāng	zhōngwén	qiānbǐ	gōngzuò	xiūxi
	2声+2声	2声+3声	2声+4声	2声+1声	2声+轻声
	páiqiú	píjiǔ	zázhì	guójiā	pópo
	3声+3声	3声+4声	3声+1声	3声+2声	3声+轻声
	gǎnxiǎng	tǐyù	lǎoshī	wǎngqiú	yǎnjìng
3 音 節	4声+4声	4声+1声	4声+2声	4声+3声	4声+轻声
	zhèngzhì	dàngāo	zhùmíng	diànnǎo	tàiyáng
4 音 節	diànshìjī	liánhéguó	yùndòngguì	dàshǐguǎn	xīngqitiān
	zhānlánguǎn	túshūguǎn	zìxíngchē		
5 音 節	wànshìrúyì	běijīngdàxué	chūzūqìchē	shēntǐjiànkāng	

以上の実験から分析データを取得するにあたっては、会話試験に関しては録音記録を再生しながら発音上の誤りがあった部分をピックアップして整理し、ヒアリング筆記試験では採点結果を整理した。

3 データ分析

この部分では学習者の声調の習得状況を把握するために、会話試験と筆記試験時のミスを整理し、それぞれをマッチングして間違いやすい傾向および特徴があるのかを概観する。

3.1 会話試験の分析

学習者が発音時に見られがちな声調ケースをまとめるために、会話試験で成績が80点以上の学習者の誤った声調をまとめた。80点以上に区切ったのは、準備不足によるエラーを除き、事前に十分に準備をしたにも関わらず、訂正が効かない部分をクローズアップして考察するためである。以下の例文にアンダーバーとルビをつけた箇所が、受講生が誤った部分である。

1	你喜欢弹什么乐器?你从什么时候开始学乐器的? 我喜欢弹钢琴。我从高中一年级 <u>开始</u> 学了 <u>三年多</u> 。 我喜欢弹钢琴。从 <u>三年</u> 前开始学的。
2	你会什么乐器? 我 <u>什</u> 么 乐 器 也 <u>不</u> 会。
3	二胡和小提琴你更喜欢听哪个? <u>两</u> 个 我 都 喜 欢。
4	3. 你的爱好是什么? 我 的 爱 好 是 <u>唱</u> 歌。 我 的 爱 好 是 <u>打</u> 网 球

5	你喜欢弹什么乐器？ 我喜 <u>欢</u> 拉 <u>小</u> 提 <u>琴</u> 。
6	你从什么时候开始学钢琴的？ 我从小 <u>学</u> 三年级开始学的钢琴。学了三年多。 我从 <u>小</u> <u>学</u> <u>一</u> <u>年</u> <u>级</u> 开始学了六年多。
7	二胡和小提琴你觉得哪个更难学？ 我 <u>觉</u> <u>得</u> <u>二</u> <u>胡</u> <u>更</u> <u>难</u> <u>学</u> 。因为从没见过 <u>二</u> <u>胡</u> 。
8	你知道什么叫羊绒衫什么叫皮夹克吗？ 我 <u>知</u> <u>道</u> 。羊绒衫 <u>且</u> 语 <u>叫</u> “カシミヤセーター”皮夹克 <u>且</u> 语 <u>叫</u> “革のジャンパー”。
9	学生能赚钱吗？为什么？ 学生不能 <u>赚</u> <u>钱</u> 。 <u>没</u> <u>有</u> <u>时</u> <u>间</u> <u>去</u> <u>赚</u> <u>钱</u> 。 学生能赚 <u>下</u> <u>课</u> <u>后</u> <u>去</u> 打工赚钱。
10	买衣服的时候你试不试穿衣服？不合适怎么办？ 买衣服的时候我 <u>试</u> 穿 <u>衣</u> <u>服</u> 。不合适再 <u>试</u> 穿 <u>别</u> 的。
11	你喜欢买便宜的东西还是喜欢买贵的东西？ 我 <u>喜</u> 欢买便宜的东西。因为我现在没有钱。
12	我觉得摊子上卖的东西贵不贵？ 我觉得摊子上卖的东西 <u>不</u> 贵。因为 <u>商</u> 店里 <u>卖</u> 的东西 <u>更</u> 贵。
13	你知道什么叫促销吗？日本的促销季节是什么时候？ 我知道什么叫促销。促销是卖的 <u>比</u> <u>平</u> <u>时</u> 更便宜的意思。日本的促销季节 <u>大</u> <u>概</u> 是一月。 我知道什么叫促销。促销日语叫“販売促進”。日本的促销季节
14	你平时在哪里买衣服？那里都卖些什么？ 我在超市买衣服。那里都卖
15	你都教过别人什么？ 我教过别人 <u>数</u> 学。

上記の解答例を、正答となる声調をどの声調に間違えたのかを表3に基づいて調べてみたところ、他の先行研究と同様に、一声を三声に、三声を一声に、二声を四声に読む傾向が見られた。しかし、先行研究ではあまり触れられてこなかった点として、いずれの声調をも一声に発音しがちになる、また、四声を二声としてしまうよりも、一声もしくは三声として発音しがちになるという、二つの傾向があることが分かった。

これらの現象は母語である日本語のアクセントの影響を受けたものと考えられる。特に、一声読みが多いことは日本語のアクセントが一般的に平板であることが原因である可能性が高い。以下、日本語のアクセントの特徴を中国語の声調と比較するため、日本語の読み

方に中国語のピンインを振ってみた。

- ・日本語の平板型アクセントは2拍目以降が高く平坦に発音するが、中国語での一声に聞こえる。

s ā k ū l ā g ā
 例) さくらが

- ・日本語の起伏型アクセントの「尾高型」、「頭高型」、「中高型」はそれぞれ以下にまとめた。

- ・尾高型アクセントはポイントが語尾で2拍目以降が下がると解釈されているが、その語尾が四声に聞こえる。

s ī l ā g ā g ā
 例) しらがが

- ・頭高型アクセントはポイントが最初で、1拍目以降が下がるが、最初が高い一声に聞こえる。

h ū j ī s ā n
 例) ふじさん

- ・中高型アクセントはポイントが2拍目以降で最後は下がるが、2拍目が高い一声に聞こえる。

ō k ā s ī
 例) おかし

以上のように日本語のアクセントが中国語話者には一声もしくは四声として受け取られやすく。そのことが、日本語話者が初級中国語を学習する際には間違いをおかしやすい原因である可能性が高い。

表 3 産出の誤りのケース

本来は一声が正しい		本来は二声が正しい		本来は三声が正しい		本来は四声が正しい	
		一声に	17	一声に	12	一声に	13
二声に	×			二声に	×	二声に	1,
三声に	6	三声に	×			三声に	9
四声に	1	四声に	7	四声に	1		
軽声に	×	軽声に	×	軽声に	1	軽声に	1

3.2 筆記試験の分析

学習者が間違いがちなパターンを考察するために、多音節と個別音の正答率を表 3 にまとめてみた。正答率が低いのが当然ながら誤りやすい声調となる。

まず、表の右下の「総合的」には全体を通してそれぞれの四声と轻声が正しかった比率であるが、統計的に有意な差が見られない。

次に、二音節の正答率は「一声＋一声」、「一声＋四声」、四声＋四声」が高く、三音節正答率は「一声＋一声＋一声」、「四声＋四声＋四声」が高い。

四音節からは正答率が明らかに低くなっており、「一声＋一声＋四声＋一声」の正答率がそれぞれの個別のピンインの正答率は 82.61%, 86.96%, 60.87%, 73.91%と高かったが、四音節を組み合わせた正答率は 37.50%と低かった。

表 4 声調試験の正答率

2 音 節	1声+1声 83.33 [91.30] [82.61]	1声+2声 41.67 [65.22] [52.17]	1声+3声 33.33 [34.78] [69.57]	1声+4声 83.33 [86.96] [91.30]	1声+轻声 45.83 [52.17] 56.52
	2声+2声 54.17 [82.61] [56.52]	2声+3声 58.33 [60.87] [69.57]	2声+4声 62.50 [73.91] [73.91]	2声+1声 50.00 60.87 78.26	2声+轻声 54.17 47.83 60.87
	3声+3声 41.67 78.26 47.83	3声+4声 20.83 30.43 43.48	3声+1声 25.00 56.52 39.13	3声+2声 37.50 52.17 65.22	3声+轻声 25.00 56.52 39.13
	4声+4声 70.83 82.61 82.61	4声+1声 62.50 73.91 86.96	4声+2声 33.33 69.57 39.13	4声+3声 75.00 73.91 95.65	4声+轻声 54.17 65.22 78.26
	4声+4声+1声 50.00 78.26 69.57 78.26		2声+2声+2声 58.33 69.57 78.26 73.91		総合 1声 67.86 2声 54.43 3声 58.07 4声 65.91 轻声 56.25
	4声+4声+4声 62.50 69.57 78.26 78.26		4声+3声+3声 12.50 52.17 39.13 60.87		
	1声+1声+1声 83.33 86.96 91.30 95.65		3声+3声+3声 58.33 86.96 86.96 65.22		
	2声+1声+3声 37.50 56.52 69.57 65.22		4声+2声+1声 4.17 56.52 8.70 34.78		
4声+4声+2声+4声 25.00 69.57 78.26 39.13 69.57		3声+1声+4声+2声 8.33 30.43 56.52 52.17 43.48			
1声+1声+4声+1声 37.50 82.61 86.96 60.87 73.91		1声+3声+4声+1声 16.67 43.48 34.78 43.48 69.57			

4 おわりに

本稿では日本語を母語とする中国語学習者の話す能力と聴く能力が、読む能力と書く能力より低い点に関して、声調習得にその要因がある可能性に目を向け、頻出する誤りのパターンとその原因を探ることに主眼を置いた。そのために、学習者が声調をどのように認識し、どのようにアウトプットしているのかを考察するにあたって、声調習得の到達度がヒアリングと発音の両方に反映されているものと考え、両データを用いて習得の実態を概観した。

分析結果から、いくつかの特徴が見出された。①連音において各声調の正答率はほぼ同じであった。このように正答率にあまり差がない理由として考えられるのは連音化による判断の誤りである。②一般的に平板な日本語のアクセントの影響を受け、学習者は多くの声調を1声あるいは4声に認識してしまう傾向があった。③学習者は二音節と三音節の連音において「1声+1声」、「1声+4声」、「4声+4声」、「1声+1声+1声」、「4声+4声+4声」の識別は非常に得意であるが、四音節連音になると混乱が生じた。よって、長い会話になると、相対的に得意な1声と4声であっても認識のミスが生じる可能性が高い。

臨界期仮説に沿い、学習者はすでに言語習得の臨界期を超えている点と学習環境を考慮して、理解しやすい教授法を工夫する必要がある。例えば、日本語には声調という概念はないものの、日常生活で使用している語に中国語のそれぞれの声調を当てはめて馴染ませる方法などが考えられるが、声調の教授法に関しては今後の課題とする。

上では触れていないが、3Qの質疑応答会話試験で発音に多少の間違いが見られても、学習者が質問の意味を正確に理解して、ネイティブが聞いてわかる適切な回答をしてくれた点、さらに、決まった時間内に回答を済ませた点、また4Qの筆記試験で正答した部分は高く評価すべきある。これは、図1に示したコミュニケーション能力の中、言語理解及び産出能力を示す「正確性」と、スピーディにアウトプットできる「流暢性」がある程度獲得できていることを表す。

筆者は、大学における中国語教育において望ましい指導方法とは、「聴く・話す・読む・書く」の四機能を同時に伸ばし、総合的なコミュニケーション能力を有する人材を育てることだと考え、音声指導だけを重視した授業の実践はあまり望ましい指導方法ではないと考える。今回取り上げたように、学習者が苦手とする部分についての事例研究や計量手法を導入しながら、今後も教授法に検討を加えていくべきである。

参考文献

- 呉青姫(2011)。「APUにおける初級中国語学習者向けの学習指導法 ―復旦大学の外国人向け中国語教育実態から学んだ経験と教訓―」『ポリグロシア』(立命館アジア太平洋大学) 20, pp.81-90.
- 呉青姫(2012)。「初級段階における中国語発音指導の再考 ―母音指導を中心とした指導方法の模索―」『ポリグロシア』(立命館アジア太平洋大学) 22, pp.89-97.
- 大山理恵(2016)。「日本語学習者におけるアクセント句の習得・音声指導を重視した授業実践の効果―」『日本語日本文化研究』(同志社大学) 14 pp.91-103.
- 胡玉華, 宇野忍(2005)。「日本人の中国語初学者に声調学習を援助する際の効果的方法に関する研究 ―構成法的な仮説検証法を用いて―」、『教育心理学研究』 53, pp.541-550.